

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果と学位論文審査基準の対応マップ

		卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果	
		1	2
学位論文審査基準	1	◎	◎
	2	◎	◎
	3	◎	◎
	4	◎	◎
	5	◎	◎
	6	◎	◎

国際文化交流学研究科の学位論文を評価するためのルーブリック

	尺度5（S） （特に優秀な成績）	尺度4（A） （優秀な成績）	尺度3（B） （要求を満たす成績）	尺度2（C） （合格と認められる最低の成績）	尺度1（D）（不合格）
研究課題の明確性及び先行研究を踏まえて的的確性	研究課題の学術的意義が極めて明確に設定されており、かつ「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」のいずれかにかかる文献をはじめ、先行研究を包括的かつ的確に把握し、極めて適切に参照、引用していること。	研究課題の学術的意義が十分明確に設定されており、かつ「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」のいずれかにかかる文献をはじめ、先行研究を概ね把握し、適切に参照、引用していること。	研究課題の学術的意義が概ね明確に設定されており、かつ「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」のいずれかにかかる文献をはじめ、先行研究を概ね把握し、概ね適切に参照、引用していること。	研究課題の学術的意義が一定程度明確に設定されており、かつ「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」のいずれかにかかる文献をはじめ、先行研究を概ね把握し、一定程度適切に参照、引用していること。	研究課題が明確に設定されておらず、かつ「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」のいずれかにかかる文献が不足し、先行研究の把握が不足し、適切な参照、引用がなされていないこと。
課題を追求する上で方法論の適切性	「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」のいずれかにかかる原典や研究文献を極めてよく読解し、内容検討した上で、研究分野において極めて適切な方法論を採用していること。	「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」のいずれかにかかる原典や研究文献を概ね読解し、内容検討した上で、研究分野において概ね適切な方法論を採用していること。	「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」のいずれかにかかる原典や研究文献を概ね読解し、内容検討した上で、研究分野において概ね適切な方法論を採用していること。	「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」のいずれかにかかる原典や研究文献を一定程度読解し、内容検討した上で、研究分野において一定程度適切な方法論を採用していること。	「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」のいずれかにかかる原典や研究文献の読解、内容検討が不足し、研究分野において適切な方法論を採用されていないこと。
研究方法及び調査方法の妥当性	研究分野と研究課題に求められる研究方法および調査方法が極めて適切に採用され、「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」のいずれかにかかる資料収集、読解、分析等が極めて妥当に実施されていること。	研究分野と研究課題に求められる研究方法および調査方法が十分適切に採用され、「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」のいずれかにかかる資料収集、読解、分析等が妥当に実施されていること。	研究分野と研究課題に求められる研究方法および調査方法が概ね適切に採用され、「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」のいずれかにかかる資料収集、読解、分析等が概ね妥当に実施されていること。	研究分野と研究課題に求められる研究方法および調査方法が一定程度適切に採用され、「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」のいずれかにかかる資料収集、読解、分析等が一定程度妥当に実施されていること。	研究分野と研究課題に求められる研究方法および調査方法が適切に採用されておらず、「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」のいずれかにかかる資料収集、読解、分析等が度妥当に実施されていないこと。
結論の妥当性	修士論文の構成、論述において、極めて的確かつ説得力のある結論が実証的、整合的に導き出されていること。	修士論文の構成、論述において、十分的確かつ説得力のある結論が実証的、整合的に導き出されていること。	修士論文の構成、論述において、概ね的確かつ説得力のある結論が実証的、整合的に導き出されていること。	修士論文の構成、論述において、一定程度的確かつ説得力のある結論が実証的、整合的に導き出されていること。	修士論文の構成、論述において、的確かつ説得力のある結論が実証的、整合的に導き出されていないこと。
研究の独創性と研究分野への貢献	研究の内容が先行研究と照らして極めて独創的であり、研究分野の発展に大きく貢献していること。	研究の内容が先行研究と照らして十分独創的であり、研究分野の発展に貢献していること。	研究の内容が先行研究と照らして概ね独創的であり、研究分野の発展に概ね貢献していること。	研究の内容が先行研究と照らして一定程度独創的であり、研究分野の発展に一定程度貢献していること。	研究の内容が先行研究と照らして独創的でなく、研究分野の発展に貢献しえないこと。
その他	「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」のいずれかにかかる文献の講読・読解が極めて的確になされていること。研究倫理に関して適切に判断されていること。極めて的確な語句使用、文章表現がなされ、学位論文としての体裁がととのっていること。	「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」のいずれかにかかる文献の講読・読解が十分的確になされていること。研究倫理に関して適切に判断されていること。十分的確な語句使用、文章表現がなされ、学位論文としての体裁がととのっていること。	「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」のいずれかにかかる文献の講読・読解が概ね的確になされていること。研究倫理に関して適切に判断されていること。的確な語句使用、文章表現がなされ、学位論文としての体裁がととのっていること。	「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」のいずれかにかかる文献の講読・読解が一定程度的確になされていること。研究倫理に関して適切に判断されていること。一定程度的確な語句使用、文章表現がなされ、学位論文としての体裁がととのっていること。	「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」のいずれかにかかる文献の講読・読解が的確になされていないこと。研究倫理に関して適切な判断がされていないこと。的確な語句使用、文章表現がなされておらず、学位論文としての体裁がととのっていないこと。